



## 追 悼

### 岡本民夫先生を偲んで

小山 隆

同志社大学社会学部

同志社大学名誉教授で本学会の名誉会員でもある岡本民夫先生が2024年12月11日に満88歳でお亡くなりになりました。十年以上にわたって前立腺がんを患われていたとの話を後に奥様からお聞きしましたが、そのことを我々は最後まで存じ上げませんでした。「ご本人がご病気であることを忘れておられたのではないか」と冗談を我々の間で言い合うような先生らしい素敵な生涯でした。

先生の思い出をいくつか書き連ねてみたいと思います。

○教育者として： 僕はマスターから同志社に入りました。当時岡本先生はまだ大学院の担当をしておられなかったので、ご縁はありませんでした。にもかかわらず僕は、院を出て専門学校の教師になると決まった時に、岡本先生になぜか相談しました。接点もない先生になぜ相談したかという、自分でもわからないのですが、独特な垣根の低さ、頼りやすさがあったのだと思います。ご相談すると初対面ですのに、研究室にお招きいただきました。そして、いろいろアドバイスいただいた上に、何冊も教科書を、紹介してくださいました。『ケースワーク研究』を書かれた後だったので、全国からご本が送ってこられていたようです。そんな教科書をこれ参考にどうぞと紹介され、さらには持って帰りなさいと何冊もくださいました。オープンマインドで誰にも分け隔てなく接して下さる姿にあこがれたのが先生との出会いの始まりでした。

○研究者として： 岡本先生は一言でいえば、博物学者(?)ともいうべき知の巨人であったように思います。同志社大学を定年で退職なさるときに、残して下さった資料が様々、僕の手元にあるのですが、その中に上にも触れた、先生の初期の代表作である『ケースワーク研究』(1973)の元になったものがあります。本棚二段分くらいを占めるB5サイズの手書きの書誌カードです。洋雑誌の”SOCIAL WORK”から、家裁の「調研紀要」、各大学紀要までケースワーク原理、面接技法、老人福祉(単行本)等々のカテゴリーに分けて一本一本の論文・著書について情報を手書きで整理しておられます。またそれと同じくらいのボリュームの論文、資料のコピーも残されています。今やインターネット上のデータベースで、一瞬でその多くがヒットしますが、心にも記憶にも残りません。一方、自ら現物を収集しコピーし、カード化するこの作業をお若いころにされたからこそ、その後の研究者としての先生があるのだと思い、時々カードを見返しています。

○実践の支え手として； 先生と一緒に現場の方の勉強会のお手伝いをしたことがあります。岡本先生や僕が講師を務めた連続講座を受講した人々が自発的に集まった勉強会です。自ら事例検討をしたり、悩み事を互いに相談したり意欲的で楽しい会だったのですが、何年もたつうちに出席者

も減り不活発になってきました。その時に「先生に来ていただきながらこのような不活発な会では申し訳ない」とメンバーから解散の議論が出ました。その時に戸惑う僕とは違って、岡本先生はきっぱりと「最後の一人になるまで僕はこの会に関わりますよ」とおっしゃいました。それが支えになり会は解散を免れました。もちろん、さらに月日がたちやがて自然消滅はしたのですが、その時のメンバーたちがその後施設長などに育ってくれています。

○実践の支え手として 2：同様の話ですが、日本ソーシャルワーカー協会が解散について議論されたことがあります。理事会でしたか総会でしたか忘れましたが、執行部から解散やむなしとの声もだされました。その時に、解散は反対だとの声は一部参加者から上がるのですが、ではどうするかの見解は出ず会議が膠着しました。その時にお互いが顔を見合わせる中、すでに大御所であった岡本先生が「自分が会を引き受けてもよいよ」との発言をしてくださり、皆驚きながら甘えることにして、会の存続が決まりました。あの時の先生の決断があるからこそ、現在まで続く協会が存続したのだと思います。（あくまでも一参加者の僕の主観的感想ですが。）

このように、教育者として、研究者として、実践の支え手として、魅力的でお手本になる先生でした。自分なりにですが、先生に近づきたいと思います。

ご冥福をお祈り申し上げます。